

## 2. 経営方針

### (1) 経営の基本方針

当社は、摩擦・磨耗・潤滑・材料技術を基盤として、エンジニアリングの基礎をなす独自性のある製品を創り出すことで、お客様に貢献し、社会の繁栄に寄与することを基本理念としています。また、株主・顧客・社員の信頼と期待に応え、社会とともに成長発展をめざすことを念頭において経営をいたしております。

### (2) 利益配分に関する基本方針

当社は、株主への利益還元と事業の成長および経営基盤の強化のための内部留保を総合的に勘案し、長期にわたり安定的な配当の継続を基本に考えております。

短期的には、配当性向30%をめざし、平成11年3月期に一株当たり8円50銭であった配当金を平成14年3月期には16円まで増加させる予定であります。

内部留保した資金は、将来にわたる株主利益を確保するため、将来の事業成長のための投資および財務体質の強化に活用してまいります。

### (3) 目標とする経営指標

当社は、中期経営計画('00年～'02年)の中で株主資本利益率(ROE)を6%超にすることを目標としております。平成14年3月期においては、海外展開資金の調達と株式の流動性を高めるため公募増資を実施したことによりROEが低下いたしますが、(4)中期的な経営戦略で述べています方策を確実に実施し目標達成をめざします。

### (4) 中期的な経営戦略

当企業集団は、「スピード&オープン」をスローガンに、国際競争力を高め、各事業分野でのリーディングカンパニーをめざし、中期経営計画を策定し実行中でありま

その方策として

#### 海外展開

自動車メーカーが生産・販売するところで、部品を販売・生産できるよう、世界四極販売・生産体制の確立をめざす。

昨年の欧州進出でもって世界四極での拠点づくりは完了いたし現在は各拠点での体制整備・強化に取り組んでいます。さらにアジアでの活動を強化するため、韓国に現地法人を設立し生産準備に入るとともに、中国への進出も検討中でありま

#### 製法の刷新

世界ナンバー・ワンの軸受材料および製品の製法刷新をめざす。

昨年、幸海工場を建設し、画期的な製法を取り入れた銅系軸受素材ラインを完成させ、また、細谷工場では、新鑄造・圧延機によるアルミ系軸受素材ラインを設置し、高性能・高精度・低コストを実現しつつあります。

さらにライン完成度を高め世界の自動車メーカーに積極的に拡販していく考えであります。

#### 新製品の開発

次世代の自動車・エンジンに対応した製品の開発および情報技術に対応した製品の開発をめざす。

昨年は数多くの新製品(VVT部品ローター、高圧チェック弁、リニアソレノイド等)を提供させていただきましたが、今年度は、今後拡大が期待されるハイブリッド車用蓄電池部品「集電板」を開発し販売を開始いたしました。

引き続き高品質で魅力ある新製品の開発をしていきます。

## 営業の開発

トップシェア獲得をめざしたコア製品の拡販と営業主導の製品開発を進めるため、営業マンの増員と国内外の営業拠点の拡充をはかります。

昨年は軸受標準プシュの市販を代理店を通じ本格的に開始いたし今後さらに拡大を見込んでいます。今年度は、甲信越・北陸地区のサービス強化を狙いとして、長野県に「松本営業所」を開設し営業活動を開始いたしております。

## (5) 会社の経営管理組織の整備等

当社は、倫理・コンプライアンスの周知・徹底を図るため、今年度より法務部門に担当する専門部署を設置し、行動指針・社内規定および業務の再チェックを実施しています。さらに、役員・管理者等を対象に社外講師による講演会の実施、各部に設置したコンプライアンス委員との研修会の実施等、法令遵守の理解促進を図る全社的な取り組みを実施いたしております。

## (6) 関連当事者（親会社等）との関係

当社は、平成13年9月に実施した公募増資により、トヨタ自動車株式会社の連結子会社から関連会社（当社発行済株式総数の38.8%を所有）に変更になっております。

取引関係では、当社の売上高のうち、トヨタ自動車株式会社の比率は52.4%であり主要な顧客であります。人事面でも役員招聘、幹部社員の転籍等により、急成長する当社の経営組織に対し人材の充足強化を図っております。

今後とも、トヨタグループの一員として、トヨタ自動車株式会社ならびにトヨタグループ各社と良好な関係を、継続していく考えであります。